

つきたい力

取組みの概要・ポイント

語彙力・表現力を高める
自身の学びをふりかえり力をつける

- ① 逆向き設計の授業づくり → 「書く力」の育成 → めあてとふりかえりを結びつける
- ② ふりかえりで授業を見とる → 指導と評価の一体化

具体的な取組みの内容 「ゴールを意識した授業づくり」「ふりかえりから、書く力をつける」

① ゴールを意識した 逆向き設計の授業づくり

児童の実態把握

アンケート
ふりかえりテスト

授業改善

単元名	児童の実態	めあて
たんばのちえ じゆんじよに気をつけて読もう	読解など情報と情報との関係について理解することができる。(第1・第2)ア) 読解の目的や場面などを考えながら、内容の大意を捉えることができる。(第1・第2)イ) ① 文章の中の重要な部分や文を捉えようとする。(第1・第2)イ)	かんそうを覚える。
つかない い	「ちえ」「おけ」「思ったこと」を気次で書く。	読んだってことを書く。
1	・ 題材をよみ、初めの感想を書き、交流する。 (おもしろいと感じたこと、不思議なと思ったこと、初めて知ったことなどを中心に)	かんそうを覚える。
2	・ 読解練習をする。	読解名人をめざす。
3	・ 読解した内容を自分の言葉で話せるように練習する。 (読解後・読入 → 説明)	かんそうのよさを活かす。
4	・ 読解した内容を自分の言葉で話せるように練習する。 (読解後・読入 → 説明)	かんそうのよさを活かす。
5	・ 読解した内容を自分の言葉で話せるように練習する。 (読解後・読入 → 説明)	かんそうのよさを活かす。
6	・ 読解した内容を自分の言葉で話せるように練習する。 (読解後・読入 → 説明)	かんそうのよさを活かす。
7	・ 読解した内容を自分の言葉で話せるように練習する。 (読解後・読入 → 説明)	かんそうのよさを活かす。
8	・ 読解した内容を自分の言葉で話せるように練習する。 (読解後・読入 → 説明)	かんそうのよさを活かす。
9	・ 読解した内容を自分の言葉で話せるように練習する。 (読解後・読入 → 説明)	かんそうのよさを活かす。
10	・ 読解した内容を自分の言葉で話せるように練習する。 (読解後・読入 → 説明)	かんそうのよさを活かす。

ポイント!
逆向き設計の授業づくりのために単元計画表を活用。
児童の課題を意識し、つきたい力とゴールを明確にする。

書くことへの手立て

- ① 児童の実態を把握し、つきたい力を明確にする。
- ② 単元のゴールを設定する。
- ③ 何のために書くのか、目的意識をもつ。
- ④ だれに向けて書くのか、相手意識をもつ。
- ⑤ 文章を書くことが苦手な子への手立てを考える。
- ⑥ 書くための準備をする。
(ワークシート・シンキングツールなどを活用する)

ワークシート **ポイント!**
・ 順序だてて考える。
・ 文字数を意識する。
・ 段落ごとに分けて考える。

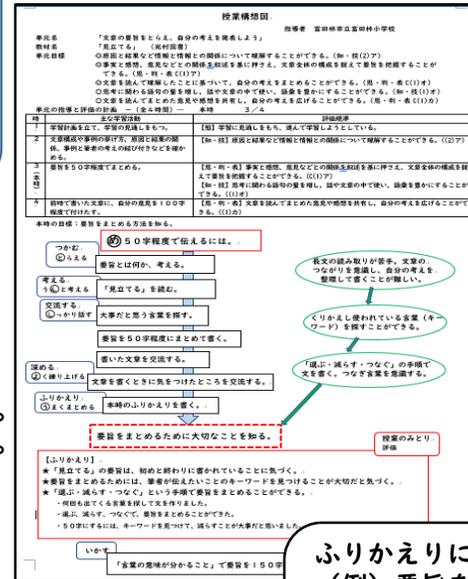
シンキングツール **ポイント!**
・ 書く順番を決める。
・ 書きたいことの情報を集める。
・ 書くことを整理する。

② 指導と評価の一体化 「ふりかえり」から授業の見とりをする。

ポイント!

つきたい力、授業の流れ、評価のポイントが分かりやすい授業構想図。めあてとふりかえりを結びつける。

「書く力」をつける
～ふりかえりを書く～
「めあて」の工夫



ふりかえりにつながるめあての設定
(例) 要旨を50字程度でまとめるには…
↓
ふりかえり めあての言葉に続けて書く。
↓
児童のふりかえりから授業の見とりをする。

取組みを通しての子どもの変容

国語アンケートの各項目で、肯定的な回答の割合が増加した。特に「国語がすきだ」4月60%→12月75%、「国語の授業では、目的に応じて自分の考えを話したり、書いたりしている」4月78%→96%と大きな成果が見られた。また、富田林市が作成しているふりかえりテストの記述問題の正答率が、1学期と比べ2.5ポイント上昇した。さらに、授業づくりや書くことへの手立てを続けた効果として『無解答率』が、15%→3%と大きく減少した。